

将来的な風紋広場のコンセプト

1. 視点

風紋広場は平成3年、鳥取の歴史・現在・未来の文化・風土を受けて、鳥取砂丘、童謡・唱歌などをテーマにして整備された。長らく県民のシンボル広場として親しまれてきたが、近年では地球環境、人口減少、超高齢社会化、大規模自然災害の発生などの問題を抱え、現実的には看護学校の開校、トイレの設置による人の往来の変化、緑化フェアの理念を受けたナチュラルガーデンの整備などへの対応が指摘される。

このように、風紋広場を巡る社会環境が変化した今日、求められるニーズとして、環境対策、鳥取らしさの演出、ノーマライゼーションの対応、安全・安心への配慮、新たな駅前動線への対応、炎天下の輻射熱対策、並びにゆったりと集う団欒の場の確保などが挙げられる。

2. コンセプト

こうした風紋広場の歴史と文化を受け継ぎ、新たなニーズを受けて、将来的な風紋広場のコンセプトを以下のとおりとする。

因幡の風土景観とにぎわいのなかで駅前交流を楽しむ風紋広場

鳥取に眠る資源は、温かなもてなしの心、砂丘・ジオパークの風景、民芸遺産、温泉、食の文化などにある。また、風紋デザインの進化、鳥取城のアイデンティティ、因州和紙、しゃんしゃん祭りなどの風土景観を活かした新たなランドスケープの創造にある。

こうした文化的景観と人の心を活かしたパフォーマンス広場、緑のオープンカフェ、さらには季節の花で彩られた緑陰効果などが求められる。大切なことは広場のどこかで毎日イベント、バザーが開かれることだ。規模は問わない。例えば、移動販売車の出店などで夜でも滞留空間を充実してにぎわいを誘いバードハットに繋げる。

防災対策は過去に経験した教訓の活用でもある。トイレ設置の検討にあたっては、仮設トイレ用の便槽、貯水槽、備蓄庫などを充実し、防火緑地を配するとともに、市街地における公園緑地ネットワークの起点として幹線道路に緑のベルトを延伸し安全安心度を高める。